
魔法少女リリカルなのはStrikers ~ 撃ち貫くは弾丸 ~

血塗られた罪深き神殺の剣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのはStrikers 撃ち貫くは弾丸

【Nコード】

N4297P

【作者名】

血塗られた罪深き神殺の劔

【あらすじ】

私、ティアナ・ランスターの問題も解決して3日、新たに六課に教導官がやって来た。

なのはさんだけじゃ負担が大きいみたいで、はやて部隊長もOKしたみたい。昔、執務官補佐をやってて、私と同じ銃型のデバイスを使う人らしい…

外見は怪しいけど…

何処かで見たとあるのよねえ…

オリジナルキャラクター紹介

名前、ハイヘ・ウルリツヒ・ルーデル（イメージC.V、小山力也）

年齢、22歳前後と思われるが詳細不明

性別、男性

身長、184cm

体重、81kg

出身地、第87管理外世界「シュトウーカ」

魔力光、ダークブラッド

魔導式、ミッド式

魔力保有量、C

魔導士ランク、陸戦AA+

戦闘スタイル、超長距離射砲撃、中遠距離射撃

ポジション、センターガード、フルバック、スナイピングバック

デバイス、超大型対物狙撃銃型アームドデバイス

名称「ツィーレンゲヴェーアソルダート」

愛称「ソル」

所属、第442ブリュイエル級39番次元航行巡洋艦コツラー嘱託魔道士 首都武装隊狙撃班 地上本部付隊第13特別武装隊第2対テロ制圧小隊副隊長兼第1狙撃班班長 機動六課ロングアーチ・パトローネ遊撃分隊長

階級、准陸尉

コールサイン、パトローネ1

保有資格、各種運転・操縦免許、A級デバイスマイスター、質量兵器取扱・解体処理資格、爆発物取扱・解体処理資格、危険物取扱責任者資格、陸戦戦技教導官資格、対空戦魔導士戦技教導官資格、小隊指揮官資格、分隊指揮官資格、二級航空機整備士資格、車両整備士資格

容姿、ダークブラッド色の髪にダークグレー色の瞳。褐色の肌。髪はリボンを解いたティアナと同じ位で前髪は両目が隠れ鼻まである。手入れをしていないのであちこちハネている。目付きが悪く俗に言う三白眼でしかも、瞳孔が開いているのでこれを隠す為に前髪を伸ばしている。基本的に無表情

体格は、鍛えてあり筋肉質ではないがそれなりに引き締まっている
容姿レベルは中の上この上へのモブキャラレベル

性格、クールでシニカルではあるがヒニルでは無い。態度や表情には出さないが心で燃える静かな熱血漢。他人の評価などは全く気にしておらず、自分が認めるか、尊敬しない限り、基本的に敬語は使わないが、立场上仕方なく使う事はある

趣味、機械・軍事・戦争、戦術、歴史関係書物の読書（最近は、第97管理外世界の戦術書がお気に入り）、武器手入れ、機械いじり、釣り、人間観察、ブランデー（酒）の飲み比べ、タバコ

備考、シュトゥーカには魔法文化は無く、1960～80年代位機械文化であり、言語は地球のドイツ語に良く酷似している（作者が英、独語が駄目な為デバイス等の会話は日本語表示になります）

へいへは戦争孤児であり発見された当初は首が座っており体重が8000g程であったので生後一年前後と判断されている

シュトゥーカは政府軍と反政府軍による革命戦争が起きており、へいへは反政府軍のスナイパーとして活躍していたへいへ10歳前後頃、シュトゥーカでロストロギアによる事件を魔法を使わずに質量兵器で破壊し、管理局に事情聴取され、この時、魔力資質ありと分り勧誘されるが断り、民間協力者をしていたが、2年後、反政府軍が戦争に勝ち市民革命が成功した為、囑託魔道士となり入局

5

保有魔力は少ないが実戦経験を活かした効率的かつ合理的で無駄を切り詰めた魔力の運用で、囑託魔導士時代（この時のへいへは13歳前後でBランク）にSランクの魔導士を倒した経験がある。そのため、魔力至上主義者に煙たがられている（結構悪どい戦闘をしている為）

また、自己紹介の時に「正々堂々、幾重にも罫に搔け、不意を突き、遠く背後から、音も無く、頭を撃ち抜く、卑怯な臆病者スナイパー」と言うほどで、本人は周りの評価などを全く気にしていない

魔力弾誘導操作と魔力収束が苦手、と言うより使える事は使えるのだが、体質的に合わないのか、効果などがイマイチなので、基本的に直射魔法しか使わない

そのかわり、魔力制御や術式構築・展開速度に優れていて、デバイスを使わずにラケーテンハンマークラスの攻撃を防ぐ事ができる
また、プログラミングでの余分な構築式の排除や修正による高速、効率化で魔法発動のタイムラグが皆無であり、魔法陣出現と同時に魔法が発動している（アニメの様に回りながら展開する事が無い）
上記の理由により一般局員が使用する砲撃魔法でさえ発動には10〜30秒と時間がかかる
また、ジャミングや隠蔽も得意で、魔力感知やサーチャーによる探索、探索による発見は困難である

武装隊狙撃班に所属していたのでヴァイスとは面識がありそれなりに親しい。ヴァイスの妹誤射事件では、特別武装隊に移動していた為知らない

ティアナの兄ティードとは、同じ銃型のデバイスを使うと言う事で一時期、執務官補佐をしていた。なお、ティードの殉職事件の時は別任務についていた。葬儀に参加してティードを侮辱した上官に対して、起動したソルダートを眉間に突き付け罵倒しながら発砲し謹慎処分を受けるなどの面もある

原作（Sts）4年前のアースラに、なのは達が独立し戦力低下した部隊の戦技教導をしていた為、クロノとも知り合いで、たまに飲む仲であり、今回の出向はそのためである

なのは達とは面識は無い

デバイス、シーレンゲヴェーアソルダート詳細

正式名称、ミッドチルダ式人格形カートリッジシステム搭載超大型対物狙撃銃型アームドデバイス「TM・GT A I C S I A D - B L A M S R 5 1 9 c ・ ツイーレンゲヴェーアソルダート」AI人格、男性型（イメージCV、室園丈裕）

性格、バルディッシュより無口で必要最低限のコミュニケーションしかとらないが、ヘイヘを半身と呼ぶほど信頼している

使用言語、シュトウーカ語

バリアジャケット、OD色の半袖インナー、半袖迷彩服上衣、黒のミリタリーノースリーブジャケット、迷彩のミリタリーカーゴパンツ、黒の軍用ブーツ、黒のコンバットグローブ

がヘイへのセットアップするバリアジャケット
さらに、右肩にクロスした銃に大砲を背負った左目に眼帯を付けた
隻眼の鷹に「カノーネンフォーゲル」とシュトウーカ語で書かれた
エンブレムがついている

また、場合により各種迷彩（砂漠、森林、コンクリートなど多数）
ギリスーツ形のヴァージョンもある

待機形状、ドックタグ

フォルムヌル・ティーゲル
起動状態、超大型対物狙撃銃

イメージモデル、IST-12・7アンチマテリアルライフル

全長、210cm

銃身長、167.4cm

口径、 19・05mm (75口径)

備考、ハイヘがシュトウーカで反政府軍時に使用していたスナイパーライフルを元に、大口徑、貫通力、制圧性、命中精度、連射性、射程延長、発射初速を求め、さらに人体工学での研究の結果、超大型対物狙撃銃となった

なお、アンチマテリアルライフル対物狙撃銃とは、口径が50口径(弾丸の直径が12・7mm)前後の人に使用するには非人道的過ぎる(腹部に命中すれば上半身と下半身に別れ、数十メートル吹き飛ばすほど)威力を持つ、少し前の呼び方は、対戦車ライフルと呼ばれていた狙撃銃の事である

フォルムアインス・ヴォルフ(MG42汎用機関銃形)

全長、 1220mm

銃身長、 627mm

口径、 7・62mm

備考、ハイヘが遠中両距離で使用する形状、信頼性が高く、更に命中精度、制圧力、貫通力、連射性も高い

フォルムツヴァイ・ファルケン(FN-P90サブマシンガン形)

全長、 50・4cm

銃身長、 26・3cm

口径、 5・7mm

備考、主に近中距離にてヘイヘが使用する形状で、小型で取り回しも良く、室内など限定された場所で使う。連射しても反動が少なく集弾性も高く、貫通力が絶大で、牽制にも対人戦も対複数戦にも対応出来る

フォームドライ・ドラツヘ（ショットガン内蔵パイルバンカー形）

全長、120cm

銃身長、81.7cm（55.2cm）

口径、50mm（25mm）

近接格射撃用フォーム、魔力で出来た杭を撃ち出す事と超小型の魔力弾を広範囲にばら蒔くショットガンを内蔵し、魔力刃を発生させる事もでき、貫通力、突破力、突貫力、制圧力に特化しているが、滅多に使う事は無い。なお、（ ）はショットガンのデータである

フォームファイア・カノーネンフォーゲル（縦二連装37mm対物破砕砲型）

全長、3500m

砲身長（口径）、2.775m（75口径）

砲弾直径、37mm

砲撃戦用フォームで一番威力の高い砲撃魔法で射程約15kmを超え直撃すれば、小型の次元航行船を大破させられるほどの圧倒的な

火力を持つ砲撃魔法（SLBブラスター3カートリッジフルロードと同等クラス）が放てる

また、一番頑丈で強度のあるフォームでもある

発射速度は魔力収束が苦手なヘイヘが使うので魔力収束に集中して、その場から動かない事を前提として約25分に一発で、戦闘行動しながらでは発射は不可能であるが収束魔法以外の射撃、砲撃魔法の使用は可能

現在、封印中である

また、銃と砲では口径の意味が違い、銃では2.54mm（1インチ）÷弾丸の直径＝口径となり、砲では砲弾の直径÷砲身の長さ分の砲弾直径＝口径である（戦艦大和の主砲45口径46cmは砲身の長さが460÷20.7＝45となる）詳しくはWikipediaで

また、全フォームは実弾の使用を前提に作られており、時折ブリーディングルームやデバイスルーム、格納庫、自室などで分解整備を行なっている姿が見られる

カートリッジシステムについて、ヘイヘは、三つのカートリッジシステムを使用する

カートリッジシステム（略称、CS）

なのは達が使っているCSの事である（詳しい説明は原作かWikipediaで）

ショートカートリッジシステム（略称、SCS）

魔力弾一発かスファイア一機分の魔力込めたCSで安全性、安定性が高く低コストで、使用者、デバイスに負担が無い、ヘイヘが創ったオリジナルCSで特別武装隊狙撃班で使用されている。

また、特殊な空間圧縮魔法を使い見た目よりも装弾数が多い。レイジングハートのマガジンサイズで30〜50発のカートリッジを装填でき、一番装弾数の多いマガジンで1500発装填できる

ハイカートリッジシステム（略称、HCS）

ヘイヘが創ったCS16発分の魔力を内包した物で一発の大きさが通常CSより二回りほど大きなCSでフォームファイア・カノーネンフォーゲルの時に使用する（一発使用すれば、15分程収束時間を短縮できるが、使用者とデバイス過度の負荷を与える）

プロローグ

ミッドチルダ某所、バー「アルトリーゼ」

クロノ「すまない、遅れた」

ヘイヘ「…気にするな、何時もの事だ」

クロノ「手厳しいな、君は。っとマスター、彼と同じモノを」

ヘイヘ「で、いきなり呼び出しといて何だ？」

クロノ「ああ、君に出向して貰いたい所があるんだ」

ヘイヘ「お前の船か？」

クロノ「いや、陸おかだ」

ヘイヘ「陸？……ああ、アレか……」

クロノ「そう、最近新たに創設された第六の機動課部隊、機動六課」

ヘイヘ「…理由は？たいした理由でなければ厳しいぞ。レジアスの
老いぼれのお膝元の付隊所属の俺を六課になんて……」

クロノ「六課は、管理局の未来を担う若手の集まりだ…つまり前線
メンバーは隊長陣と一部を除き経験が無いに等しい」

ヘイヘ「……………」

クロノ「もう二回ほど出勤があったけど無事任務達成は出来たんだが、報告書を見るとなかなか厳しくてね。それに、隊員のフレンドリーファイヤ未遂も合ってたね。それと分隊長の一人は昔、撃墜されてね、理由は過労だったんだ。彼女は溜め込んで他人に洩らさないタイプでね。役割分担による負担軽減と個別教導教官に指揮のアドバイザー兼オブザーバーとして、と言うのが表向きの理由だ」

ヘイヘ「…実戦経験豊富で単独での作戦行動が可能で、あらゆる状況、特に、極少数による対軍戦闘と魔法を使用しない戦闘に特化し、冷静かつ柔軟に対応でき、なおかつ、信頼出来る腕と人間性を持つ人物……………相変わらずイイ性格をしている」

クロノ「君にそう言われるとは、恐悦至極の極みだね」

ヘイヘ「……………追加だ、恐妻シスコンチビ提督殿」

クロノ「せめて、愛妻家と言って欲しいね。それと、後の二つはどういう事だ？」

ヘイヘ「今でもお兄ちゃんと呼ばれて顔を紅くして照れてる事と、18でやっと170cmを超えたヤツには丁度いいだろう？」

クロノ「ぐっ……そ、それで、受けてくれるか？」

ヘイヘ「ククツ……どうせ、断れ無い様に手回しされているのだから部隊長に挨拶する時に『シスコン提督の過保護だ』とでも伝えるとしよう」

クロノ「本当に君は…」

へいへ「それにしても…だ。今回の山は相当物騒みたいだな？」

クロノ「物騒どころじゃないさ……これは最重要機密だが……
……と言う事だね」

へいへ「……………くくっ、面白い…実に面白い…」

クロノ「…そう言うと思ったよ…まったく…」

へいへ「結構、結構。つまらん子守りかと思ったが…なかなかどうして…」

クロノ「だが…油断出来ないぞ」

へいへ「元より、油断も慢心も無い。なんせ俺は『正々堂々、幾重にも罨に搔け、不意を付き、遠く背後から、音も無く、頭を撃ち抜く、卑怯な臆病者』だ」

へいへ「ああ、クロノ」

クロノ「何だ？」

ヘイヘ「…質量兵器の使用権と発砲射殺承認をお前の権限で出せる様にしておけ…」

クロノ「…それは君の勘…か？」

ヘイヘ「…ああ、俺の…スナイパーとしての勘だ…」

クロノ「…わかった。責任を取るのが僕の仕事だ。キッチリ勤めは果たすよ」

ヘイヘ「すまない…」

クロノ「まあ、使わないに越した事は無いけど…君の勘を信じるよ。彼女達の事…頼んだよ」

ヘイヘ「了解だ」

クロノ「ッ　！？ゴホッ、ゴホッ！！…この酒キツくないか？」

ヘイヘ「…そうか？只のテキーラだぞ？」

クロノ「テ、テキーラって！？普通はショットグラスで飲まないか

「？」

「へいへ、普通は、な」

ククロノ「…わかった…何も言わないでくれ。遅れて来た事は、本当に謝る」

第一話（前書き）

キャラの階級はWikipediaを参考にしていますが、明記されていないキャラは自分の独断と偏見で決定いたします事をご了承下さい。

なお、階級の表を後書きに作成していますので気になる方は後書きをご覧ください。

第一話

「最後に、本日より機動六課に出向して来たルーデル准尉の紹介や。ルーデル准尉どうぞ」

「…本日より、地上本部付隊第13特別武装隊から出向して来た、ハイヘ・ウルリツヒ・ルーデル准陸尉だ。私の六課での主な役割は、教導教官補佐及び個人教導と出勤時の遊撃を担当する。…多少見知った顔も散見されるが宜しく頼む」

クロノから聞いてはいたが…女の割合が多いな。八割は女か、ガキも混じってる…か

人材不足もここまでくると問題だな。

…いや、俺も入局はガキだったか。

「これで朝礼は終わり。あ、それと隊長陣と各部署の長は、この後、部隊長室に集合や。ほな、解散」終わったか。
さてどうなる事やら…

・
・
・

「…皆、集まったみたいやな。じゃ、改めて自己紹介や。まず、高町教導官から」

隊長陣、各部署の長挨拶中…

しかし、大体の人間が俺より歳下で階級が上とは…キャリアは違うな…

「始めまして、シャリオ・フィーニー一等陸士です。皆からはシヤリーと呼ばれています。六課ではデバイスのメンテナンスから設計までしてます。確か、A級デバイスマイスター資格をお持ちだとか?」

ヘイへ「ああ、ソル…俺のデバイスだが…カスタマイズや調整するのに都合が良いのでな」

「そうですか。六課の施設案内後にデバイスルームの方に来て下さい。データや消耗部品などを把握したいので」

「わかった」

「次は俺だな。お久しぶりですね、ヘイへさん。自己紹介はいいとして、今は六課で人員空中輸送科でヘリパイしてます。また同じ職場になれて嬉しいです」

「こちらもだ。…だが、ヘリパイだと?職種変換したのか?」

…何かあったのか?

「…ええ…まあ、色々ありまして…」

ぼかした…あつたみたいだな。…誤射…か?

「そうか…」

「…はい」

「訓練は?」

「ストームレイダーを構えて射撃予習を週に二回、二時間程ですが……」

「射たないのか？」

「…はい」

射たないか…これは、誤射だな。無関係な奴を射ったか…

「わかった」

後で調べるか…

「最後は俺か。先の朝礼で言ったように、名前は、ハイヘ・ウルリツヒ・ルーデル。階級は准陸尉。高町教導官の補佐で陸戦魔導士教導と対空戦魔導士戦闘教導をする事にもなる。出勤時は遊撃を担当し、暫くは俺一人での単独遊撃だ。コールサインはパトローネ1。ポジションは、スナイピングバツクだ。面子と状況次第でセンターガードとフルバツクのどちらも出来る。戦闘スタイルは、中遠距離射撃、超長距離射撃。最後にコイツが俺のデバイス、ツイーレンゲヴェーアソルダートだ」

首に掛っているソルを見せる。

「何か質問は？」

視線を巡らせ聞く。

「ウチからええかな。スナイピングバツクってポジション聞いた事無いんやけど…どないな事するん？」

八神が聞いてくる。

「知らないのも無理は無い、正式なポジションでは無く、ウチの隊だけの呼び名だからな。簡単に言うとなルバツクの補佐と護衛、フルバツクの更に後方からの射撃、砲撃魔法による戦闘支援、援護、牽制、陽動を行うポジションだ」

「なるほどなあ。…って事はヘイへ准尉は強化、補助系の魔法も使えるんか？」

「一応は…な。ただ、本職にはかなり劣る。多少マシになる程度だ」

「了解や。ほんなら、出向理由聞いてええか？」

「何？チb…ハラOWN提督から聞いて無いのか？
クロノの奴伝えてないのか？」

「チ？」

「気にするな。」

「まあ、ええけど。クロノ提督からは支援要員を送る、としか聞いとらんのよ」

…説明しとけよ。あのバカ…
しかし…どう誤魔化すか…
アレを言うか…？

「俺も似た様なものだ。恐らくは、シスコン魂を發揮した提督の過

保護だろつと当たりをつけているが？」

さあーで、奴はなんて反論するか…ね

第一話（後書き）

この作品における階級一覧表（下に行くほど偉くなります）

訓練生

三等陸士さんとうりくし

二等陸士

一等陸士

陸士長

三等陸曹

二等陸曹

一等陸曹

陸曹長

准陸尉

三等陸尉

二等陸尉

一等陸尉

准陸佐じゅんりくさ

三等陸佐

二等陸佐

一等陸佐

准将

少将

中将

大将

元帥

上記の様になります。

階級の「陸」の所を「空」、「海」に変更すれば対応可能かと思

ます。

将官以上に陸や空が付くか解らなかつたため付けておりません。

また、提督は一等陸尉以上の艦艇を指揮する能力のある人物に付けられる名誉階級である為、ここでは明記しません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4297p/>

魔法少女リリカルなのはStrikers～撃ち貫くは弾丸～

2011年12月28日06時51分発行